

グローバルなリサイクルシステムの構築を担う

グローバルで急速な経済成長とともに鉱物資源の枯渇が危惧される中、各種資源の世界規模での利用と循環は、グローバル経済にとって重要なテーマとなっています。また、中国の環境規制に伴う世界のリサイクルフローの変化も大きな課題のひとつです。

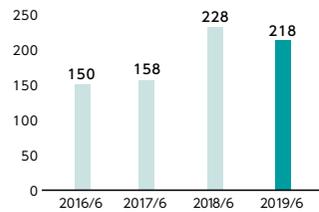
(株)エコネコル貿易部はグローバル資源循環事業として、各事業のアウトプットとして生成されるリサイクル材や再生原料の流通をグローバルに展開し、国を超えたリサイクルシステムの構築に貢献しています。金属系スクラップの国内・海外流通に留まらず、再生可能エネルギーの燃料となるPKS (Palm Kernel Shell : パーム椰子殻) や木質ペレットおよび多様な資源を国際流通させることで、最適な国際資源循環を実現しています。



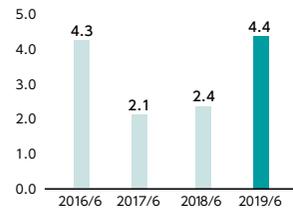
コンテナに鉄スクラップを入れている様子

輸送船の内部の様子

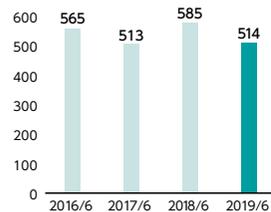
売上高 (単位: 億円)



経常利益 (単位: 億円)



取扱量 (単位: 千t)



グローバル資源循環事業の3つの事業

鉄スクラップ事業

全国の港にて集荷した鉄スクラップを、顧客のニーズに沿った品質管理を行った上で、国内外の鉄鋼メーカー（高炉・電気炉）へ販売しています。また、バルク船の輸送だけでなく、コンテナ輸送も積極的に行い、小口顧客、遠隔地の顧客への販売にも注力しています。

非鉄金属事業

様々なスクラップに含まれる非鉄金属を独自の再資源化プラントで破碎・選別し、国内外の主要な非鉄製錬メーカーや二次合金メーカーのニーズに合う品質の非鉄スクラップに分別して、韓国・中国・東南アジアを中心として、最近では南西アジア（インド・パキスタン等）への新たな販売市場の開拓も進めています。

バイオマス事業

2017年より東南アジアを中心にPKS (Palm Kernel Sell : パーム椰子殻) の販売をはじめ、2019年7月より日本への輸入も開始しました。

PKSは再生可能エネルギー燃料として注目され、日本を中心にさらなる需要拡大が予測されており、マレーシアヤードに続き、2019年8月にはインドネシアヤードを開設しました。今後はPKSのみならず木質ペレットや新燃料等、取扱品種や集荷ヤードの拡大を図っていく予定です。



PKS



木質ペレット



Topics

政府専用機の再資源化

(株)エコネコルは2019年5月、航空自衛隊の入札によって払い下げとなった政府専用機 (B747-400) 2機の売買契約を行い、同年6月末にアメリカ合衆国アラスカ州のアンカレッジ空港にて引き渡しを受けました。

当該機は、耐空証明書（自動車で行うところの車検）の無い航空機であるため、中古航空機としてではなく、部品取り用のジャンク機として航空自衛隊から仕入れ、アメリカのバイヤーに販売を行ったものとなります。

当該機は日本で初めて運用された政府専用機であり、長年日本のフラッグシップとして国民から愛された航空機でもあることから、同社はこれを単純に資源としてではなく、新たな「生命」を授けた上でリユースする、「最適な販売」について検討し、取り組んでいきました。

欧米でも航空機を中古でトレードする企業と、不要になったフレームなどを再資源化する企業は分かれており、1社で総合的な評価や買取りを提案できる同社は極めて貴重な存在になり得るものと確信しています。同社はこのような環境を我々のサービスが生まれる土壌として、リユース事業に積極的に取り組んでいきます。



資源の国際流通

(株)エコネコル貿易部では、資源の国際流通を促進するため、アジアを中心とした世界各国に輸出入拠点を設置しています。

Topics

欧州からの製錬メーカー向け輸入(オランダ)

昨今の中国の廃棄物輸入規制強化により、電子基板等の貴金属を含むスクラップが欧州をはじめ世界各国で供給過剰となっています。(株)エコネコル貿易部はこのスクラップを輸入し、高度選別して金・銀・プラチナ等の貴金属を濃縮し、国内の主要な製錬メーカーに販売。世界各国の資源リサイクル企業の貴金属含有スクラップの受け皿となるとともに、日本国内の製錬企業の希少資源確保に寄与しています。国際資源循環の促進と環境負荷低減に貢献しているほか、途上国に輸出され、不適正処理をされることで生じていた環境汚染の抑制にも貢献することが期待されます。

Topics

PKS インドネシアヤード開設(インドネシア)

※2019年8月開設

PKSは産地により特性が異なります。ヤードの開設によりマレーシア産、インドネシア産それぞれの需要に応えることが可能となりました。また、拠点が増え集荷量が増加することで、より安定した燃料供給を実現しています。

現地法人に任せるのではなく、直接現地のヤードを管理することで徹底した品質管理を行っており、これまで培ってきた輸送ノウハウも用いて、様々な細かい要望に対応しています。



インドネシアヤード

凡例



拠点

- ① エコネコルホーチミン駐在事務所
- ② エコネコル欧州駐在事務所 イギリス (※2019年10月1日開設)
- ③ MBS MALAYSIA (マレーシア)
- ④ MBS INDONESIA (インドネシア)
- ⑤ MBS SINGAPORE (シンガポール)